

7番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1 瀬戸市の農業政策の今と未来について</p> <p>【質問趣旨】</p> <p>本市における農業は学校給食への食材提供を始めとした地産地消、環境保全、さらには地域の文化やコミュニティの維持において重要な役割を果たしている。しかし近年は農業従事者の高齢化や担い手不足、イノシシ等の害獣被害等の様々な課題が浮き彫りになってきており、個人資産である農地や個人事業である農業に対して、行政や関係団体が取り組み課題解決を図ってきた。今後もその取り組みを継続していく中で、令和7年度4月からの組織改編において担当課の所管部が移ることとなった。また来年度は5か年計画である第2次瀬戸市</p>	<p>(1) 耕作放棄地対策について</p>	<p>① 本市の令和5年度の耕作放棄地面積は13.9ヘクタールあり、令和2年度末の10.7ヘクタールから3年で3.2ヘクタール増えている。その解消策として市民農園の活用及び農地バンク制度を行ってきたが、現在までの取り組みを総括した上で課題をどの様に把握しているのか伺う。</p> <p>② 担い手やマッチングの問題ではなく立地等の根本的な理由により、再生がほぼ不可能な農地も現状増えていると聞いている。今後は柔軟な利活用を推進していく必要があると考え、非農地判断について国も近年方針を示したが本市における判断基準と対応策を伺う。</p> <p>③ 農地は耕作放棄地となってから2, 3年管理を怠ると再生するのにかなりの手間(重機等の費用及び労働力)を要する。上記小項目②以外の農地を耕作放棄地とさせないためには、担い手を育成し、事業として成立させることが何よりも重要であり、その支援をしていくことが行政や関係団体の最重要の役割であると考えが見解を伺う。</p> <p>④ 担い手が耕作面積を根本的に増やしていけるのは水稲が最も効果的であると考え。現在、本市の農業塾の卒塾生で水稲を行っている事業者はいないと聞く。理由と今後の方策を伺う。</p> <p>⑤ 農業者の減少及び耕作放棄地対策の事業として、地域農業経営基盤強化促進計画を令和7年3月策定目標として取り組んでいる。対象地域の農業の将来のあり方や目指すべき将来の農用地利用の姿である目標地図を明確にしていく中で、本市は対象地域の4地区にどの様に関わり、成果としてどの様なものが見込まれるのか伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

7 番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>地産地消推進計画の最終年でありこれまでの振り返り、次に繋げていく大切な年度と考える。</p> <p>そこで、本市の耕作放棄地対策や地産地消、地域農業の振興について確認をし、今後の施策に向けた提言に繋げていく。</p>	<p>(2) 農業者が自立していくための支援の現状について</p> <p>(3) 学校給食への農作物の提供について</p>	<p>① 平成27年の一般質問において「農地バンクの借主のニーズを把握して、JAあいち尾東と連携しながら営農指導などのサポートに努めていく」との答弁があった。本市の農業塾の卒塾生として市民農園を利活用しているのは43名であるが、取り組み、成果及び課題について伺う。</p> <p>② 農業の担い手として自立していくための収入がなければ持続可能な事業になっていかない。担い手のライフプランニングや営農計画の相談について現在どの様な体制であるか伺う。</p> <p>③ 農業生産者が収入を得る方法として、市場や産直への出荷、学校給食への提供、6次産業の確立等が考えられる。農業塾卒塾生の成果物の出荷に対し、本市はどのように取り組んできたのか。出荷販売以外で自立の一助となる様な方策は何か伺う。</p> <p>① 本市の農畜産物の学校給食への提供回数は、令和5年度は86回と目標値を大きく超えているが、更に推進していくためにはどの様な課題があるのか伺う。</p> <p>② 児童生徒においしくて栄養価のある、安全安心な地元食材を提供することは大変有意義であり、食育にも大きく貢献すると考える。課題として価格、安定供給、規格等があげられるが、市は農業事業者に対し、学校給食への提供をもとにした提案や働きかけはどの様であったのか伺う。</p> <p>③ 地産地消と農業振興及び食育の推進のためには、関係団体はもとより行政組織においても部課をまたいだ連携を今まで以上に行うことが必要と考えるが見解を伺う。</p>

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

7 番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	<p>(4) 農産物のブランド化と6次産業化の現状と今後について</p> <p>(5) 本市の農地を次世代に残していくための環境保全について</p> <p>(6) 組織改編後の本市の農業政策推進について</p>	<p>① 安全安心な瀬戸市農畜産物の供給と農畜産物のブランド化として、平成29年より「せとのもの」を認定し取り組んできた。現在までの成果と今後の課題をどの様に認識しているのか伺う。</p> <p>② 消費者ニーズに応じた瀬戸市農畜産物を使用した加工品を開発する、新産業創設推進事業「瀬戸めし2.0」を推進してきた成果として 野菜たっぷり白あんかけ焼きそば、ホルモンがつつり黒あんかけ焼きそば、ごもめし及びてりかけが道の駅の食堂メニューとして追加されたが、本市の農畜産物の付加価値を高めることと、農家の収益向上についてどれだけの成果が出せるか伺う。</p> <p>③ 上記のあんかけ焼きそばは、2種類のレトルト加工商品を土産販売用として開発中とある。商品を開発、完成して終わりではなく、それを販売促進し、瀬戸市の名物として認知度向上と供給アップが重要であり、シティプロモーションにも寄与していくと考える。販売促進計画はどの様なものであるか伺う。</p> <p>① 本市南部の幡山地域は矢田川沿いに水田地帯が広がり、土地改良もされ害獣被害も比較的少ない地域であるため今後も持続していく農業地域であると考えられる。当該地域にて安全安心なお米を作るためには矢田川の水質保全は必須であるが、そのためには今後どの様な取り組みが必要であるか伺う。</p> <p>① この度の組織改編により農業政策を所管する農林課は都市整備部の所管となる。農地転用や農業土木整備等はフロアが同じになり効率的となる半面、農業振興推進にはそぐわないのではと懸念する。中項目(1)から(4)までの取り組みの推進についてどの様に担保していくのか伺う。</p>

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。